

令和4年度大規模災害時の支援協力に関する連絡会（北薩ブロック）議事録

場 所：北薩地域振興局本庁舎 4階 第1会議室

期 日：令和4年5月27日（金）10：30～12：00

参加者：【北薩地域振興局建設部】10名

仁禮建設部長

〔土木建築課〕栗野土木建築課長、市来技術補佐、

〔河川港湾課〕長崎河川港湾課長

〔出水市駐在〕脇技術主幹

〔甑島支所〕堀之内支所長、堀元技術補佐

〔連絡会事務局〕新澤技術主幹兼技術調整係長、石走技術専門員、福田土木技師

【(公社)鹿児島県測量設計業協会】5名

安永会長（㈱国土技術コンサルタント）

理事：原田（新和技术コンサルタント㈱）、山内（㈱大進）

〔連絡責任者〕

（正）：出口（新和技术コンサルタント㈱）、（副）：深見（㈱大進）

【(公社)鹿児島県地質調査業協会】4名

梶原理事長（ユニオン技術㈱）

今奈良副理事長（㈱植村地質コンサルタント）、杉元理事（山本新栄地質㈱）

〔連絡責任者〕

赤崎（㈱アーステクノ）

会議資料：会次第及び災害支援協力連絡会 出席者名簿

資料1：協定書

資料2：連絡体制

資料3：公共土木施設等の概要

資料4：協会資料



議 事

1. 開 会

(新澤技術主幹兼技術調整係長)

開会と司会進行を務める旨の言葉。

2. あいさつ

(北薩地域振興局 仁禮建設部長)

皆さん、お世話になります。両協会の方々におかれましてはお忙しい中災害時の支援協力に関する連絡会にご出席いただきましてありがとうございます。またかねてから本県土木行政の推進にご理解とご協力賜りまして誠に感謝申し上げます。

今年もいよいよ5月11日に奄美が梅雨入りしたということで、本土はまだのようですけれど、例年5月の末ということで、最近ではニュースで防災点検の姿を見るような季節になりました。昨年は管内でも、皆さんご存知だと思いますが7月8日～10日の3日間で553㎖とか554㎖の雨が降りました。この雨というのが平年の月平均1ヶ月に相当するそうです。そのぐらい降ったので甚大な被害が及びました。そのようなことから、昨年測量協会の方々には災害支援協力要請をさせていただいたところでもあります。協会の会員の皆様方にはそのような危険な中、迅速・的確に対応していただきました。本当にありがとうございます。おかげで昨年の12月までには全部で206件の災害査定を終えまして、今現在用地の取得未完が2件ありますが204件契約がすんだところ。最近の雨というのは尋常なものではございませんので、常日頃から大規模災害に備えていくことが重要だなというのが昨年は痛感したところでもあります。

本日は大規模災害時の支援協力の円滑な連絡体制が図られるよう意見交換という場を設けさせていただきましたので、皆様方には忌憚ないご意見いただけますようよろしくお願いいたします。

(鹿児島県測量設計業協会 安永会長)

皆さん、おはようございます。鹿児島県測量設計業協会の安永でございます。

今日はまずコロナ感染対策がまだ微妙な中、対面での連絡会を設営していただきましたこと感謝申し上げます。また常日頃より協会会員の活動に向けてご配慮いただいていますことに対しましても、改めて感謝申し上げます。

連絡会ということでございます。後で正の責任者から今年度の状況、ルールというのを説明させていただきますが、4月に入りまして協会は災害対応の講習会、これは毎年やるという事になってございまして、一昨年がちょっと残念ながらコロナの出だしの頃で中止させていただいたけれど、去年・今年と開催をさせていただいております。場所は川商ホールで感染対策に十分気を付けながら、750名程度の参加ということでございます。我々としましてはそこでの安全教育、これは必須ということで協定の中でも謳われておりますので、そこに十二分に留意しながら協会の会員がいざ大規模災害時の被害状況確認をとるという要請があった場合には対応できるようにということで常日頃全体の技術ということではないですが、やり方、そこ全体を勉強させてもらっているところでございます。また、県のほうからも毎年度講師としてどういう格好の災害があるかないかという話をさせていただいております、そこも大変参考になるのかなあという風に思います。

今年度でございますけれど、テレビで見ていると今年6月の梅雨は雨量としては例年並みか多いと、まあ多いということなのでしょうけど、例年でございますけれど6月末から7月頭にかけて大きな雨が降ると毎年のことのようになっております。協会としても県と災害対応の協定を

結びまして、令和に入ってからですね、毎年2地域振興局毎に対応の要請がございまして出動させていただきます。

今年も幸か不幸か多分雨は降るのだろうなという風に覚悟しております。問題は降るのだろうけど、どこに降るかということがポイントなのだろうと思います。どこに降っても対応できるように協会としては講習会をしたこの750名、実質600名ぐらいですかね、きちんと対応できるように準備を整えております。また、もし来た時には大変になりますけれど、ご指導を仰ぎながらなろうかと思っております。本日はこの会議が実りのあるものになりますように祈念します。今日はありがとうございます。

(鹿児島県地質調査業協会 梶原理事長)

おはようございます。私は鹿児島県地質調査業協会の理事長梶原です。日頃から鹿児島県土木におかれましては当協会に特段のご指導・ご配慮を賜っております。あらためて感謝申し上げます。本日は1年ぶりに対面での連絡会ということで、一向に収束を見ないコロナ禍の中準備をしていただき、ご苦労されたことと思っております。本当にありがとうございます。

災害は忘れた頃にやってくると言われていましたが、今や地球の温暖化の影響で風水害、土砂災害、プレートの動きに起因する大規模地震・火山活動による災害が毎年起きております。小笠原海底火山噴火に起因する軽石被害、人吉の災害と大規模災害が起きたのは最近のことです。線状降水帯の天気予報がそのまま豪雨災害に直結することが現実のこととなっています。我々は災害後の対応を迅速に行わなければなりません。鹿児島県と当協会は7年前、平成27年に災害協定を結びました。それから昨年を除いて毎年連絡会を執り行ってきました。現在協定締結時の当協会執行部と協会の陣容は大幅に入れ替わっております。災害を忘れないためにこの機会を持って協定の主旨を再認識し、災害対応の体制をさらに充実させることとし協会全員に周知・徹底させていきたいと考えております。

当協会は比較的小さな団体ですが、一旦事があれば全協会員、全力・総力で対応していきます。この連絡会で皆様と有意義な時間を共有できることをありがたく思い、私の挨拶いたします。

3. 打合内容の資料説明

(新澤技術主幹兼技術調整係長)

打合せ用資料について、資料1・2・3は私新澤から説明させていただきます。資料2連絡体系図・資料4につきまして測量設計業協会及び地質調査業協会から説明をお願いいたします。

- 資料1：協定書 の説明
- 資料2：連絡体制 の説明
- 資料3：公共土木施設等の概要 の説明

(鹿児島県測量設計業協会 原田理事)

- 資料4：協会資料 の説明、資料2連絡体系図の説明

(鹿児島県地質調査業協会 杉元理事)

- 資料4：協会資料 の説明、資料2連絡体系図の説明

4. 意見交換

(新澤技術主幹兼技術調整係長)

意見交換に入りたいと思います。何かご意見等ございましたらよろしくお願いたします。

(仁禮建設部長)

うちの管内は地すべり地域というのが、指定みたいなのがありますか。

(鹿児島県地質調査業協会 今奈良副理事長)

2日前に鹿児島地域振興局からそういう箇所がございますかという指摘をいただきまして、業務として発注されているのが吉野山とかですね。地滑りって事業について事業化されている箇所は確かにございます。質問された際に少し考えたのですが、地滑りという規定が学術的にどうですかね、最近は何もかも崩れたらですね、地滑り・地滑りと言われるので。山自体が動いているのが本当は地滑りだと私どもは教えられました。最近では表層崩壊も深層崩壊でしたり、浅くても規模が大きければそれも全てマスコミ的に言ったら全国的にも、地滑り・地滑りと言ってしまいます。が、そういうのはやっぱり基本的には豪雨災害ですよ、雨が降った時に気候的な均衡が崩れていくというのが常だと思います。その場所については、熱変を受けている場所であったり、火山地帯とかですね。

(仁禮建設部長)

鹿児島県で地質層図がありますよね。あれに概ねこの辺が地滑り地帯とかないですかね。そういうところは頭に入れとかないといけない。

(鹿児島県地質調査業協会 杉元理事)

私もその時南薩の現場の方に入らせていただいていたのですが、道路にクラックが入って路肩はもう見るからに落ちていて、それがどうゆう風に発展していくのかしないのか、いつぐらいするのかっていうのを見極める報告をしないといけないかなと思いました。

(仁禮建設部長)

例えばですね、道路にクラックがあるかないかにしても意識していないと、あの辺は地滑り地帯だから雨が降った後に見に行くときに、ある程度この辺が危ない所だなというのが、あるのとないのではだいぶ違うと思います。

(鹿児島県地質調査業協会 杉元理事)

全国の機関とかが出している地滑り地帯とかが明示されたもの(J-SHIS/地震ハザードステーション)がネットで確認できますので、そういったものを覗いて大まかな認識はしてもらえるといいのかなと思います。地質とか地形とかで現在どういう状況かっていうのが記載されておりますので、常に見るといいかと思います。

(鹿児島県地質調査業協会 今奈良副理事長)

補足をちょっとしますね。道路防災カルテを毎年、昨日あたりから発注されている状態ですけど、道路関係に関わるそういう危険箇所の要項に地滑りとかもございまして、毎年必ずチェックはしていると思います。そこで上がっているものが、道路関係は非常に有意義かなと思います。

(鹿児島県測量設計業協会 安永会長)

私のほうからも少しいですか。災害対応で随時契約をしていただくことになりました。災害対応契約で対応というのは発生から概ね1週間、国の方に報告が上がるまでを包括しております。その後が随時契約となります。そうすると当然契約をするまでの間にタイムラグがあります。協会の会員からも要望が出まして、その間に暫定契約なり、指示書なりを頂けないでしょうか。

理由は、まず労働安全。もし二次災害があった時に何もなしではしにくいというのが1点と、もう1点はですね、災害を入れると通常業務が押しますよね。押すのはいいですが、そうすると当然契約も変更になりますよね。資金計画が狂ってくると、そこに対する手当も必要だと、何らかの処理をいただければということです。

(仁禮建設部長)

この間も建設業界でも話題になりましてね。今は進捗どうなっているのか県庁に問合せしたところですよ。

(鹿児島県測量設計業協会 安永会長)

もう1点ですね、被害状況の確認をリアルタイムでできないかと。協会の方で検討を始めさせていただいております。実際の運用にあたっての詰めはきちんとしなければいけないというようなことで今話をしております。もう1つございまして、今までは7日間のタイトな間で我々が実働を3日なりにできないかと、図面をスムーズに受け渡しできればと技術センターからいただくことになりました。なるべく効率よく動くか検討させていただいております。もう1点ですね、県で会社評価を採用されていますよね、技術者が何人とか。その中に過去3年間で災害対応をしているかというのが加点の対象になるというのはどうでしょうか。今は順番ですが行けるところは全部参加させるようにして、そこでだんだん流れが変わっていくかと思えます。あとは歩掛りが何とかならんかという話もしているのですけどね。

(仁禮建設部長)

今の話で確認ですが、例えば道路台帳のデータを技術センターにストックしておいて何かあれば技術センターに取りに行く方が効率的ということですか。

(鹿児島県測量設計業協会 安永会長)

そうですね。今までは事務所の方からいただいています、特に僕はそうでもないですが大隅なんかは遠くて、災害も続いたので何とかならんかということでした。

(鹿児島県測量設計業協会 原田理事)

追加で、台帳の話が出ましたけれど、昨年度災害対応した時に、現況と河川台帳が違っておりまして位置など大変苦労しましたので、できれば最新のものを更新していただけたらと思います。

(鹿児島県測量設計業協会 安永会長)

あとですね、出先でドローンを活用できないかという話も出ています。今は重いので難しいですが、もう少し勉強したいですね。随契の部分でドローンを使ってというのはいいと思います。もうしているところはありますし、いいシステムができればいいですけどね。

(栗野土木建築課長)

ドローンの話ですと、山岳河川のような場所に行けるのですか。

(鹿児島県測量設計業協会 連絡責任者(正)出口)

電波が届かないところだと、手動になって目視が必要ですので高度をかなり上げるかですね。

(栗野土木建築課長)

河川災害ですと農道とかが壊れていて、現場まで行くのに時間がかかることがあるのでドローンがあればと思ったことがあるのですが谷とかどうでしょうね。

(鹿児島県測量設計業協会 連絡責任者(正)出口)

発見はしやすいですね。初動の時にうちの方では見えなさ過ぎたので、ここだろうという所を撮ったのですが実は横にあったとかですね、上からでないといけないということがありました。

(鹿児島県測量設計業協会 連絡責任者(副)深見)

あと、すみません。河川台帳なのですが、1番いいのは技術センターで管理している河川の堤防点検が県内全河川していますので、何k何百というのが目安となる100mピッチで振ってありますので、その情報をPDFでも電子データでもありますので管理していただければ、早いと思います。

5. 閉会あいさつ

(新澤技術主幹兼技術調整係長)

令和4年度大規模災害時の支援協力に関する連絡会を閉会致します。

どうも有難うございました。

以 上